

## 20141030 豊田市 幼保一体化の取り組み

吉野博子教育次世代委員長

- ・トヨタ自動車
- ・H17合併
- ・森林が7割
- ・自然豊かであり工業も
- ・昭和17年、トヨタ工場開いた
- ・地方から流入、子育て支援の充実
- ・H20子ども条例と共に、幼保一体型スタート
- ・東海3県で子育てしやすいまち1位
- ・これから駅前開発がどんどん進む
- ・昨日2019年ラグビーワールドカップ会場誘致に手を挙げた
- ・

子ども部保育課よりレクチャー（中野副主幹・北川主事）

- ・こども園はH20スタート
- ・概要 資料参照
- ・私立の幼稚園はこども園の中に入らない 21
- ・保育所認可市立私立、幼稚園認可 82
- ・認可はそれぞれ残したまま、双方の機能を活かす
- ・25000人弱が就学前児童数
- ・子ども子育て新制度
- ・人口推計 H31には21000人に。少子化
- ・0-2歳児、家庭で子どもをみているケースが多い
- ・トヨタ自動車の影響。父の収入だけでやっていける
- ・夜勤もあり。
- ・就園率は上昇傾向
- ・待機児童増えてきている
- ・幼稚園は4歳から。3歳児は私立を利用してもらう
- ・H25 278名の定員拡大
- ・老朽化した認定こども園の建て替えの際に定員枠を拡大など
- ・今ある園を有効活用
- ・園庭に余裕あるところ、拡大
- ・H20以前より垣根を越えた取り組みやっていたことが今につながっている
- ・主な取り組み
- ・保育園における私的契約時の受け入れ
- ・S41年に「4・5歳児の幼稚園、保育園全員就園施策」

- ・それ以後、私的契約時（保育に欠けていない児童）の受け入れを行っている
- ・市立の幼稚園と保育園の人事交流と職名統一
- ・幼稚園教諭と保育園の保育士の職名を「保育師」に統一
- ・H16 0-5歳 豊田市保育過程・指導計画の策定
- ・所管部署の統一
- ・義務教育委を除く子どもに対する施策の一体的推進
- ・保育課が幼稚園と保育園を所管している
- ・H17 幼保一体化検討部会の開催
- ・H20からの取り組み
- ・就学前の子供に対して、等しい保育の機会を提供する
- ・H20から統一したこと
- ・施設名称 ○○こども園
- ・職員は配置基準を統一 ※資料参照
- ・保育両党の保護者負担の統一と負担軽減を実施
- ・幼稚園、市私立保育園、H20以降
- ・4・5歳は誰でも通えるように、保育料を
- ・延長保育 1時間 1000円
- ・8:30~15:00を基本として延長に応じて料金
- ・従来の幼稚園、保育園での設定との比較 資料参照
- ・給食費幼稚園、給食センターからの搬入

#### 質問事項

- ①公立と民間格差について
  - ・保育所の数公立52 私立15
  - ・公立と同等の運営できるように、単独補助にて支援
- ②私立支援 運営費補助（公立同等の職員配置基準）
  - ・施設整備費
  - ・園活動
  - ・給食搬入
  - ・移動動物園
  - ・園外活動のバスのあり影
  - ・民間移管について
  - ・H15からH2014年10月30日
  - ・幼稚園認可6園 保育園4園民間移管
  - ・色んなニーズに対応するため
  - ・5園で休日保育

- ・行保児保育 民間移管した1園で実施
- ・引き揚げてきた公立職員、公立子ども園の0-2歳で受け入れ
- ・財政効果はなかったが、4, 5歳児の保育料
- ・私立幼稚園奨励費、独自で上乗せ
- ・民営化によって、1年8000万円の運営経費
- ・幼保一体化になって以後、うまくまわっている
- ・外での研修、幼稚園保育園でそれぞれ決められているので出れないことも
- ・検討事項
- ・こども園、認定こども園どう歩んでいくか

#### 質疑

- ・H26、4から、幼保連携型認定こども園
- ・3園、幼保連携型認定こども園に移行。内1園は様子見る
- ・親の就労証明なしでも保育受けられる
- ・10年前の豊田市が今の泉大津の現状
- ・その頃、親は幼稚園志向（教育という観点）
- ・申し込みは園でやっている→市で入園調整
- ・こども園を認定こども園に移行（公立の部分）
- ・私立幼稚園はこのままのかたちでやっていく（子ども園にはいってこなかった）
- ・理由は見学の精神
- ・園区ないが、比較的地域の子ども園に通う傾向がある
- ・9割以上が資格両方持っている
- ・給食のアレルギー対応
- ・0-2歳は除去くらいはできるが、ひどい場合はお弁当持参
- ・保幼小中連携について→あまりわからない
- ・外国人多い
- ・市で通訳を雇っている
- ・市長部局で採用しているので、人事スムーズ
- ・